

タイムラインの猫化による Twitter ストレスの低減効果の検証

平塚環

近年 SNS の普及とともに、その利用によって精神的に疲弊してしまう SNS ストレスが問題視されている。ストレスが生活に悪影響を及ぼすことは広く知られており、日々積み重なる SNS ストレスの軽減は急務である。SNS ストレス低減手法の一つに、ユーザの匿名化などによりユーザ同士のつながりをゆるやかにする「ユーザ曖昧化」があり、その結果が検証されている。本研究も、このユーザ曖昧化を利用したストレス低減を目指す。そのモチーフとして猫を利用して、タイムライン上に現れるユーザとツイートを含めて猫化する。SNS 上で好感を得やすい「猫」を利用することで、ユーザ曖昧化の効果に加えて、「癒し」効果を与えることを実現する。本研究の目的は、タイムラインを猫化した Twitter クライアント“Nyatter”を作成し、その利用による SNS ストレス低減効果を検証することである。

Nyatter では Twitter の API を利用して、ユーザアイコンを全て猫画像に変更し、ツイートテキストを猫が発言しているかのように変換する。

タイムラインの猫化の効果を検証するために、ユーザ実験を行った。実験参加者は、Twitter を日常的に使う大学生・大学院生 35 名とし、利用するクライアントのタイムラインがアイコンのみ猫化された A 群、テキストのみ猫化された B 群、アイコンとテキストの両方が猫化された C 群に分けた。実験期間の一週間、Nyatter を利用してもらい、その前後で SNS ストレスの 4 因子である「閲覧の強要」「社会的比較」「SNS と現実の違い」「過剰な繋がり」についてのアンケートをとった。

実験の結果、利用の前後のストレス変化に 3 群間で有意な差はなかったが、B、C 群において「社会的比較ストレス」の減少が、A、B 群において「過剰な繋がりストレス」の減少が有意に示された。B、C 群においてのみ、自由回答でテキストが猫になったことにより「面白い」「マイルド」「猫っぽい」という印象を受けたという回答が得られた。また、長文や暗い話題、非難、煽りなどのツイートからマイナスの感情を受ける度合いが少なくなったという回答が得られた。これらより、Twitter 上のユーザを猫のように感じることでツイートに対し「面白い」「マイルド」という印象を受け、内容からマイナス感情を受けにくくなったことが考えられる。一方、「過剰な繋がりストレス」の減少において、A、B 群からはテキストの猫化がツイートの内容に関係なく好感を与えたことや、アイコン、テキストの猫化がもたらすプラスの印象により SNS 内での他ユーザとの過剰な繋がりや和らいだということが分かった。C 群で有意な減少が見られなかった点については、アイコンのみ、テキストのみの猫化に比べて、アイコンとテキスト両方の猫化はユーザの情報の喪失量が増加するため、ユーザ識別にかかる疲労によって「過剰な繋がりストレス」の低減効果が減少したことが可能性として考えられる。

本研究ではタイムラインを猫化する Twitter クライアント Nyatter を実現し、実験によりタイムライン猫化 Twitter クライアント Nyatter は、SNS ストレスの「社会的比較ストレス」と「過剰な繋がりストレス」の低減に効果がある可能性を示した。今後の課題は、アイコンとテキストそれぞれが SNS ストレスの低下にもたらす影響をより詳細に探ることである。

(指導教員 松村敦)